

ヒノヒカリ・さがびより 栽培のポイント

月別	5月	6月	7月	8月	9月	10月							
生育過程	種子予措	播種期	発芽期	育苗期	有分けつ 効期	無分けつ 効期	幼形成期	穂形成期	出穂	穂揃期	登熟期	成熟期	刈取期
水管理	《気象状況に応じたこまめな水管理》												
肥培管理	元肥 追肥 穂肥 水田除草剤 中干し 穂肥診断 70~80%出穂 落水期 収穫10日前に落水する												
粉剤防除	種子消毒 箱施薬 誤散布に注意 除草剤との 第一回防除 第二回防除 臨機防除 (トビロウカ発生状況に応じて実施する)												
液剤防除	無人ヘリ防除 ①アプロードロムダンモンカットエア+ダブルカットフロアブル+スタークル液剤10 ②ブラシンバリダソル+スタークル液剤10 ・ダブルカットフロアブル(いもち病).....1000倍 ・アプロード水和剤(ウンカ類).....1000倍 ・モンセレンフロアブル(紋枯病).....1500倍 ・ブラシンフロアブル(いもち病).....1000倍 ・アプロードロムダンモンカットエア(紋枯病・ウンカ類・コブノメイガ).....750倍 (1回目防除はスタークル剤を必ず混合する) ・ロムダンソル(コブノメイガ).....1000倍 ・スタークル液剤10(ウンカ類・カメムシ類).....1000倍 病害虫の発生により組み合わせ散布する。												
対象病害虫	いもち病 こま葉枯病 ばか苗病 シンシキヤウ ユンカ類 コブノメイガ ウンカ類 紋枯病 ユンカ類 カメムシ コブノメイガ 紋枯病 穂いもち病 カメムシ ウンカ類 穂枯れ病 こま葉枯病												

月別	5月	6月	7月	8月	9月	10月							
生育過程	種子予措	播種期	発芽期	育苗期	有分けつ 効期	無分けつ 効期	幼形成期	穂形成期	出穂	穂揃期	登熟期	成熟期	刈取期
水管理	《気象状況に応じたこまめな水管理》												
肥培管理	元肥 追肥 穂肥 水田除草剤 中干し 穂肥診断 70~80%出穂 落水期 収穫10日前に落水する												
粉剤防除	種子消毒 箱施薬 誤散布に注意 除草剤との 第一回防除 第二回防除 臨機防除 (トビロウカ発生状況に応じて実施する)												
液剤防除	無人ヘリ防除 ①アプロードロムダンモンカットエア+ダブルカットフロアブル+スタークル液剤10 ②ブラシンバリダソル+スタークル液剤10 ・ダブルカットフロアブル(いもち病).....1000倍 ・アプロード水和剤(ウンカ類).....1000倍 ・モンセレンフロアブル(紋枯病).....1500倍 ・ブラシンフロアブル(いもち病).....1000倍 ・アプロードロムダンモンカットエア(紋枯病・ウンカ類・コブノメイガ).....750倍 (1回目防除はスタークル剤を必ず混合する) ・ロムダンソル(コブノメイガ).....1000倍 ・スタークル液剤10(ウンカ類・カメムシ類).....1000倍 病害虫の発生により組み合わせ散布する。												
対象病害虫	いもち病 こま葉枯病 ばか苗病 シンシキヤウ ユンカ類 コブノメイガ ウンカ類 紋枯病 ユンカ類 カメムシ コブノメイガ 紋枯病 穂いもち病 カメムシ ウンカ類 穂枯れ病 こま葉枯病												

ヒノヒカリの施肥基準 (10a当たり)

肥料名	元肥	追肥	穂肥	合計
一般田	BB480 30kg	10kg	—	40kg
	BB602 —	—	20kg	20kg
大豆跡地	BB480 20kg	—	—	20kg
	BB602 —	—	15kg	15kg
緩効性肥料	LPBB480 40kg	—	—	40kg
	BB602 —	—	20kg	20kg

①側条施肥は、肥料の吸収利用率が高いので、注意する。
 ②大豆跡地では元肥と穂肥を調整する。また、野菜跡地では元肥施用を控え、生育状況に応じて施用する。
 ③穂肥について生育状況により加減する。また、穂肥後不足するようであれば5~7日以内N成分1kg/10a施用。

さがびよりの施肥基準 (10a当たり)

肥料名	元肥	穂肥	合計
一般田	BB480 30kg	—	30kg
	BB602 —	15kg	15kg
大豆跡地	BB480 20kg	—	20kg
	BB602 —	15kg	15kg
山麓	BB480 40kg	—	40kg
	BB602 —	15kg	15kg

①大豆跡地では元肥と穂肥を調整する。また、野菜跡地では元肥施用を控え、生育状況に応じて施用する。
 ②穂肥については、穂肥診断に基づいて施用する。

穂肥量の目安 (ヒノヒカリの場合)

草丈	葉色		施肥時期		施肥量 kg/10a
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	
80cm以下	3.0以下	34以下	21日	1~2mm	20kg
	3.0~3.3	35~38	19日	3~5mm	20kg
	3.5~3.8	39~40	17日	5~15mm	10kg
	3.8以上	41以上	15日	15~30mm	施用しない
	80cm以上	3.0以下	34以下	21日	1~2mm
	3.0~3.5	35~38	19日	3~5mm	10kg
	3.5~3.8	39~40	17日	5~15mm	5kg
	3.8以上	41以上	15日	15~30mm	施用しない

穂肥量の目安 (さがびよりの場合)

草丈	葉色		施肥時期		施肥量 kg/10a
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	
75cm以下	2.5以下	33以下	20~18日	5mm	15kg
	3.0	33~37	18日	10mm	12kg
	3.5	37~38	16日	15mm	6kg
75cm~80cm	3.8以上	39以上	施用しない		
	3.0以下	36以下	18~16日	10~15mm	10kg
80cm以上	3.0以上	37以上	施用しない		

【調製・出荷基準】

項目	目標	摘要
1等比率	100%	
整粒歩合	70%以上	検査規格での1等整粒歩合は70%
玄米水分	15%以下	許容範囲 14.5~15.0%
タンパク含量	6.8%以下	
調製網目	1.9mm以上	

さがびより 出荷基準

「さがびより」は「県産米・県産米」として将来の佐賀県農業の基礎となる品種として育て、消費者から信頼されるよう年間を通じ品質・量ともに安定した出荷基盤を構築する。
 ※タンパク基準の区分荷受けの方法
 ●成熟期前に全筆を対象にSPADで計測し、その標記数値により標柱に判別し易い記号を記載し区分荷受けを行なう。